

令和6年度 第2回定例記者会見（説明内容）

【市議会定例会日程】〔資料1ページ〕

6月議会定例会は、会期を8月27日から9月20日までの25日間の予定で開催いたします。

【定例会提案議案】〔資料2～3ページ〕

本定例会に提出する案件は、補正予算案件が5件、条例案件が6件、人事案件が2件、一部事務組合協議案件が1件、決算の認定案件が12件 計26件であります。

報告案件といたしまして、令和5年度に終了した継続費の精算報告など、計9件をご報告させていただきます。

【令和6年度9月補正予算（案）】

一般会計補正予算（第2号）は、15億2,311万3千円を追加し、補正後の総額を、389億292万円とするものであります。

特別会計は3会計の補正で、合計3億9,516万1千円を追加し、補正後の総額を201億2,126万1千円とするものであります。

なお、一般会計補正予算及び特別会計の今回補正額は、合計で19億1,827万4千円となっております。

公営企業会計は、水道事業で収益的収入に、経営基盤の強化を図るため、高料金対策事業に係る県補助金及び他会計補助金、合わせて7,000万円を追加するものであります。

債務負担行為の補正については、一般会計において、水の郷小学校外3校のスクールバス運行管理業務委託の契約が今年度末で終了となることから、新たに令和7年度から5年間の債務負担行為を設定するものであります。

【令和6年度9月補正予算（案）の概要】

「1. シティプロモーション事業」には、市の魅力を発見、発信するため、スローシティ及びシティセールス推進支援業務委託料など、508万円を計上しました。

「2. 循環バス運行事業」には、人件費及び燃料等の高騰により現行の運行委託料の増加、及び10月から実施するデマンド交通の運行エリアを考慮し、佐原及び小見川市街地ルート運行業務委託料として1,002万1千円を計上しました。

「3. 移住・定住促進事業」には、香取市への移住・定住を促進するため、地域おこし協力隊起業支援補助金やU I J ターン起業・就業者等創出事業移住支援金など760万円を追加しました。

「4. 防犯対策事業」には、本定例会に上程する条例に合わせ、犯罪被害者の方などの経済的負担を軽減し、早期の回復を支援するため、犯罪被害者等見舞金 30 万円を計上しました。

「5. 保育所・児童館等の充実」には、児童福祉費に対する寄附金 300 万円を活用し、こども家庭センターや児童館などの備品購入費、公立保育所で実施する体操教室に係る経費などを追加しました。

「6. 生活環境整備事業」には、脱炭素社会の実現に向け、省エネ家電製品への買い替えを更に促進するため、省エネ家電製品買換え促進補助金 1,200 万円を計上しました。なお、この補助金は、当初予算で計上し、6 月に申請受付を行い既に終了しましたが、好調だったため、引き続き実施するものです。

「7. 土地改良事業」には、香取市堀之内地区において、農地の担い手への集積、集約化を推進するため、農業経営高度化支援事業補助金 3,000 万円を計上しました。

「8. 商業活性化支援事業」には、10 月に開催する「全国発酵食品サミット in かつり」の広報事業の拡充や広域連携事業を展開するなどの経費として、300 万円を追加しました。

「9. 観光振興対策事業」には、小野川周辺地域での観光客の回遊性向上を図るため、まち歩き回遊性向上検討業務経費など 466 万 1 千円を追加しました。

「10. 道路橋りょう費」には、道路維持事業に 1 億 1,438 万 4 千円、道路新設改良事業に 4,350 万円を追加しました。なお、追加分の道路補修工事費及び道路改良工事費については、施行時期の平準化を図る観点から、繰越明許費を設定しております。

「11. 中学校教育振興費」には、生徒の学力向上を図り、特色ある教育を推進するため、市内の全中学 2 年生を対象にリーディングスキルテストを実施する経費 118 万円を計上しました。

【予算案件以外の主な議案】

議案第 6 号「香取市犯罪被害者等支援条例の制定について」の案件は、犯罪被害者等の支援に関し、基本理念を定め、市の責務及び市民等の役割を明らかにするとともに、見舞金の支給等に関し必要な事項を定めるため、新たに条例を制定するものであります。

【令和5年度決算の概要】

「別冊：決算に係る参考資料及び主要施策の成果の説明書 2～7ページ」

[一般会計の決算]

算現額404億3,700万円に対し、歳入決算額が388億7,300万円、歳出決算額が365億4,700万円で、歳入歳出差引額が、23億2,700万円となる。

そのうち、翌年度の繰越事業に充てる財源1億5,600万円を控除した実質収支額は、21億7,000万円の黒字という状況。

実質収支額のうち10億9,000万円は、令和6年度に繰り越さず、財政調整基金に積み立て。

歳入決算額は、前年度より11億8,300万円の減となっており、主な要因は、佐原駅周辺地区活性化拠点整備事業が前年度に完了したため、市債が大きく減少したことによるもの。

歳出決算額も歳入と同様、前年度より4億6,500万円の減となっており、その主な要因は、消防費で防災行政無線更新工事が増加しましたが、総務費で佐原駅周辺地区活性化拠点整備事業が前年度に完了し、大きく減少したことによるもの。

【担当課説明】

- ・「令和6年度香取市地域おこし協力隊」紹介（企画政策課）
- ・「第14回全国発酵食品サミット in かつり」開催（商工観光課）
- ・「中学生議会」開催（学校教育課）
- ・「第16回香取小江戸マラソン大会」開催（生涯学習課）

【参考資料】

主な行事予定（令和6年9月～11月）

【その他】

- ・香取の逸品「小江戸佐原ビール」「さけるモッツァレラチーズ」（農政課）

偶然の出会い

佐原で生まれ、高校卒業までを佐原で過ごした。大学卒業後、営業の仕事に就いて7年経過後、海外でのワーキングホリデーを経験（カナダで1年、オーストラリアで2年）するなか、帰国後は地元香取市でクラフトビールを作りたいという気持ちが高まる。

たまたま、祖父が営んでいたせんべい工場が事業の廃止に伴い空いていたので、そこを醸造場所に使えると考えていた。

時を同じくして、佐原でビール職人を探していたかけわ株式会社とは、本当に偶然の

出会いだった

飲みやすさを追求

今は、レシピ作りから製造までを一貫して一人で行い、醸造家仲間との交流を通して独学でクラフトビールを作っている。

往々にしてあるこれまでの“地ビール”に対してのイメージは、「クセが強い」ということ。例えば、醸造家が自分の個性を際立たせて、特定のファンにだけわかってもらうようなビールづくりがある。そういう在り方もあるが、そうではなくて、多くの人に「飲みやすい」と思ってもらえる、“クラフトビール”づくりを目指している。

これからの可能性

農作物豊かな香取市なので、さまざまな副原料とのコラボをしていきたい。

また、“香取市で作るクラフトビール”のストーリーを大切に、地元の人（原材料生産者、消費者とも）に喜んでもらえるものを提供したい。

これからも「香取の逸品」を作り続けていく。